

南海トラフ地震を想定した 被災者受け入れプラン

久保 大憲

■ 今回提案するに至った理由

東日本大震災により被災し
富山県内に避難されてきた方の
生活支援を行ってきた
自らの経験をもとに作成

■ 現状と課題①

東日本大震災

ピーク時の避難所への避難者数 **45万人超**

ピーク時 現在

新潟県への避難者数 9,200人→5,800人

南海トラフ巨大地震(予測)

ピーク時の避難所への避難者数 **500万人**

愛知県・岐阜県の避難者数 約200万人

10倍以上



富山県にも多数の被災者が避難してくる

■ 現状と課題②

富山県内で災害が発生した場合

- ハザードマップの作成
- 防災計画の見直し
- 避難訓練の実施



被災者の受け入れについての議論がない



今回の政策は
多くの避難者の方を受け入れについての提案

■ 避難者の受け入れに必要な視点

- ① 避難者の視点
- ② 富山県民の視点

避難者の視点

避難所までの誘導
健康・ストレス・DV被害防止

富山県民の視点

開放する避難所の優先順位
病院・保育所・介護施設等の受け入れ

■ 今回の提案

ステップ1

新潟県などから

多くの避難者を受け入れた事例の情報収集と共有

ステップ2

富山県として

何をどこまで備えるのか議論を深める

ステップ3

受け入れのルール・マニュアルの作成

必要があれば条例や協定の締結など

■最後に

東日本大震災の教訓を活かし準備を行う

避難されてきた方の人道支援として
生命を維持し、苦しみを和らげ、個人の尊厳を守る

富山県民の生活を守り、負担を最小限にする。

一日も早くこの政策が実現するよう
よろしく願いします！

ご清聴ありがとうございました

